

# What's on, Kyodokodo

2010.8.20  
No.29



## CONTENTS

### 共同行動からのお知らせ

- 医療安全全国フォーラムのご案内と発表募集

### 参加・協力団体の活動紹介

- 日本小児科学会の活動
- 日本麻酔科学会の活動

### 支援チームからのお知らせ

- 経鼻栄養チューブに関する全国調査報告

### フォーラム・セミナー等のご案内

### ひとことアドバイス

- 医療関連感染症の防止(目標4)
- 医療機器の安全な操作と管理—輸液ポンプ・シリンジポンプ(目標5a)

- 成功事例・参考事例を募集しています

→ <http://kyodokodo.jp/> トピックス内

- 質問・提案をお寄せください→ [advice@ppscamp.net](mailto:advice@ppscamp.net)

- 標準化病院死亡比(HSMR)を算出してお知らせします

→ <http://kyodokodo.jp/hsmr.html>

お問い合わせは [toHSMR@ppscamp.net](mailto:toHSMR@ppscamp.net)

- 参加登録病院用のバナーができました!

→ [パートナーズ専用ページ/トップページ](#)

- 参加登録方法に関するQ&A→ <http://kyodokodo.jp/faq.html>

参加登録事項変更等に関するQ&A

→ [パートナーズ専用ページ/Q&A](#)

- キャンペーンポスターをご利用ください

完成版→ [http://kyodokodo.jp/shiryou\\_koho.html](http://kyodokodo.jp/shiryou_koho.html)

基本デザイン→ [パートナーズ専用ページ/メニュー](#)

## 共同行動からのお知らせ

### 医療安全全国フォーラムのご案内と発表募集

日時：11月26日(金) 11:00~17:15

11月27日(土) 9:00~11:45

会場：幕張メッセ国際会議場(千葉県、最寄り駅JR海浜幕張駅、<http://www.m-messe.co.jp/>)

主催：医療安全全国共同行動

後援(申請中)：厚生労働省、全国知事会

参加費：3000円

\*26日は共同行動8目標に関する活動報告の発表とセミナー、27日はシンポジウムを予定しています。詳細はホームページに順次アップしていきます。<http://kyodokodo.jp/101126forum.html>からご覧ください。

### ■8目標に関する活動報告の発表をお願いいたします

共同行動の8つの目標に関する取り組みの成果や教訓を交流・共有するために、貴病院の取り組みのご紹介をお願いいたします(活動の成果や教訓、困難を克服できた秘訣など)。

◎発表はポスターをお願いいたします。

◎募集期間：8月17日(火)~9月13日(月)

\*お申し込みいただいた後、10月4日(月)までに1000字以内の発表要旨をメールでご送付いただけますようお願いいたします。

◎発表方法：11月26日(金)の目標別セッション(14:00~15:30)で発表と質疑応答をお願いいたします。

## ■事前参加登録をお願いいたします

当日受付の円滑化と、分科会の会場定員の都合上、なるべく事前の参加申し込みをお願いいたします。

\* ファクス申し込み用紙は <http://kyodokodo.jp/101126forum.html> からダウンロードできます。

なお、11月27日～28日に同じ会場(幕張メッセ)で医療の質・安全学会学術集会在開催されます。

同学術集会在参加される方は学術集会和フォーラムの一括申し込みができますので、<http://www2.convention.co.jp/jsqsh05/> をご参照ください。

## ■プログラム

11月26日(金) 11:00～17:15 ワークショップ

・ 11:00～12:30 セミナーセッション：

A.「事例分析の基本について」(講師:自治医科大学 河野龍太郎氏)

B.「安全な手術-WHO指針の実践」

C.「急変時の迅速対応」(有害事象の早期発見と緊急対応)

D.「医療安全への患者参加-転倒転落防止と肺塞栓予防」

E.「人工呼吸器下ケアの安全管理(VAPを含む)」

・ 14:00～15:30 目標別セッション：活動報告の発表と討議

・ 5:40～17:20 全体セッション：医療安全に組織的に取り組む方法、改善効果を測る指標、ほか

11月27日(土) 9:00～11:45 シンポジウム

・ 共同行動のこれまでの評価と今後の展開について

・ 特別講演 講師：李啓充氏「患者安全-非難から改善へ」(仮題) ほか

## 参加・協力団体の活動紹介

### 日本小児科学会の活動

## 日本小児科学会における医療安全の活動と今後の計画

社団法人日本小児科学会における医療安全については、五十嵐隆会長の下で、医療安全担当理事と医療安全委員会が担当し、2004年以来、毎年目標を設定し、活動を行ってきた。

平成21年度の小児の医療安全の活動内容と今後の計画を紹介したい。

### 1) 診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業について

医療安全委員会は、平成17年度より日本医学会傘下の各学会と厚生労働省が協力して開始した「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」の、当学会における窓口として活動してきた。この5年間に小児例は9例報告されている。

### 2) 医療事故調査に関する外部委員の依頼への対応について

今年度、医療事故が起きた病院の管理者が事故調査のための外部委員を当学会に求めてきた事例があり、今後このような依頼が増えることが予想された。このため、当学会として公平性を担保し、専門性を重視して外部委員の候補者を推薦するための手順を作成した。

### 3) 検査のための鎮静法について

今後の当委員会の活動目標の1つとして、検査を実施するために必要な鎮静法の安全性を高めることを設定した。具体的な活動として

a. 平成22年度にMRI検査時の鎮静法についての実態調査を施行する。

b. 平成23年度の学術集会在にてその結果を報告するとともに、米国小児科学会から鎮静に関するガイドラインを策定したメンバーを招聘し、意見交換することを計画している。

日本小児科学会会長 五十嵐 隆  
医療安全委員会担当理事 小池 健一、野々山 恵章

(委員長) 阪井 裕一  
 (委員) 青谷 裕文、草川 功、五石 圭司、勝盛 宏  
 (専門委員) 飯沼 一守

## 日本麻酔科学会の活動

# 日本麻酔科学会における安全への取り組み

## 1. 偶発症例調査の実施

癌研有明病院 麻酔科  
 安全委員会委員長 横田 美幸

麻酔科の診療における合併症・偶発症は、重大な結果となることが多いので、日本麻酔科学会は、医療安全や安全性向上に関する活動として、安全委員会を常置し、早期より取り組んできました。現在の安全委員会は、以下の5つのワーキンググループ(以下、WG)で構成されています。

1. 麻酔機器・手技安全対策WG：麻酔科の診療におけるハードとソフトの安全性向上に関する活動。
2. 偶発症例(肺塞栓)調査WG：麻酔科診療における偶発症を調査分析し、安全向上を図る活動。
3. 医薬品適正評価対策WG：医薬品の適正使用に関する活動。
4. JSAPIMS(麻酔台帳)WG：麻酔台帳を整備し、麻酔の麻酔前評価・麻酔管理・麻酔中・麻酔後の合併症・偶発症データをデジタルに集積、解析することにより医療安全の向上に寄与する活動。
5. 医事紛争解決事案症例調査(Closed Claims Project: CCP)WG：医事紛争に至った事案で解決された症例を調査分析することにより、医療安全を向上させる活動。

今回特に偶発症例(肺塞栓)調査WGの活動とCCPWGの活動を紹介します。偶発症例調査は、1992年より麻酔科認定施設を対象に実施してきました。2004年～2008年の第3次調査では従来の各施設の基本データに加え、将来の多因子解析を見据えたデータ収集方法を採用し、母集団の症例ごとの年齢・ASA PS・手術部位・麻酔法体位に関するデータを収集しました。第3次調査の集計結果の内、危機的偶発症による死亡率の推移を図-1に示します。

次に30日以内の死亡原因とその割合を表-1に示します。主な原因として、出血性ショック、大出血、多臓器不全・敗血症と続きました。特に「危機的大出血」については重要で、そのガイドライン作成、続いて産科危機的大出血のガイドライン作成へとつながりました。

図-1



表-1

30日以内死亡の偶発症の原因	割合 (%)
術前合併症としての出血性ショック	31.8
手術が原因の大出血	15.2
多臓器不全・敗血症	11.2
循環器系術前合併症	10.7
中枢神経系術前合併症	4.7
術中発症の急性冠症候群・心不全	4.1
手術手技	3
人工心肺	2.3
呼吸器系術前合併症	2
麻酔管理	1.8

また、肺塞栓防止に関する活動は、2004年予防ガイドラインを血栓止血学会等と合同で策定しました。その後予防ガイドラインが日常臨床で実施されるようになり、その効果を判定するためにも、周術期肺塞栓症に関する調査を継続しています。

医事紛争解決事案症例調査 (CCP) からは、麻酔科診療における医事紛争のデータを蓄積、2008年に分析結果を報告しました。また2010年での再度分析した結果を図-2に示します。

図-2

## 医事紛争解決事案症例調査 (CCP) 紛争の原因



これは日本の麻酔科診療の特徴を反映している結果であり、ペインクリニックに関する事案が最も多く、次いで換気トラブル(挿管困難、換気困難など)、薬剤誤投与・過量と続きました。

これら安全委員会、WGの活動を通じ、医療安全・麻酔科診療の安全についての啓発活動を行った結果が表-1(麻酔による死亡率低下、安全性向上)に示されているものと考えられます。今後も医療安全・麻酔科診療の安全性の向上につなげていく活動を通じ、国民の期待に応えていく所存であります。

## 2. “周術期管理チーム”プロジェクトの意義とは?

東邦大学医療センター大森病院麻酔科  
周術期管理チームプロジェクト・チームリーダー 落合 亮一

厚生労働省の定義するハイリスク環境の一つである手術室における安全管理は、日本麻酔科学会においても最優先事項であり、先人の不断的努力によって有害事象の発生率は10万件に1件以下の低率となっている。同学会での安全への取り組みは多岐にわたり、具体的な内容については学会ホームページに詳しいが、特に手技にかかわる問題(中心静脈カテーテル挿入・管理)あるいは急変時の迅速対応(危機的出血への対応)ならびに医療機器の安全な操作と管理(麻酔器の始業点検)などについては、指針・ガイドラインのかたちで公表され、その数は12を越える状況である。(http://www.anesth.or.jp/safety/index.htm)

2010年度学術総会においても、安全はテーマの一つであり、多くの議論に湧いた。

今期は、特にアジア・オーストラレーシア麻酔科学会との共同開催でもあり、周術期の安全管理に多くのプログラムが割かれ、国内外の貴重な意見交換が行われた。

特に、5年来日本麻酔科学会が検討している“周術期管理チーム”構想については、“周術期セミナー”として第3回目を迎えたが、800名を越すコメディカルの参加者を得て、周術期医療の関心の高さを強く認識した。

本構想は、急性期医療の中核をなす周術期医療は、診療の質を向上し医療安全を確保するためには、医師のみでは不可能であり、多職種の協働のもとに新たな環境を考える必要がある、との認識から生まれたものである。マンパワーの不足する日本の医療において、不足する医師の代行としてコ



メディカルの業務拡大が喧伝される現状に警鐘を鳴らすとともに、有機的な診療環境を提供することを目的とする。

2009年度より、周術期管理チーム・プロジェクトと名称を変えて活動を加速させているが、その背景には医師と協働するコメディカルの卒前教育がその質的・量的内容に乏しく、卒後教育の充実こそが、まずなすべきことという認識から生まれたものである。その結果、共通の教材としてのテキストが2010年5月に発行された。

本テキストは、日本麻酔科学会のメンバーによって記されたもので、現時点では麻酔科医からコメディカルに向けてのメッセージがまとめられたものである。

2010年度には、日本手術看護学会、日本病院薬剤師会、日本臨床工学技士会、そして日本外科学会が参加し、真の意味での“周術期医療”を捉えたものにすべく、議論を重ねている。本テキストは、year bookの形態で毎年版を重ねることで、最先端の情報を提供するとともに、周術期医療に携わるすべての医療者の共通言語となることを目指している。

手術室という環境で働くすべての医療者が共通認識を持つことで、医療安全の質がさらに高まることを期待している。

医療安全全国共同行動は、8つのテーマが掲げられている。

その中で、行動目標7が前述の偶発症例調査であり、本プロジェクトを支える最重要因子といえる。一方、行動目標の1～6については、本プロジェクトのゴールでもあり、その教材としてのテキストの改版・刷新は日々進歩し続ける急性期医療にとって礎になるものと大いに期待している。

\*参加・協力団体の活動紹介は、[公開ページ/トップページ/メニュー](#) → [「パートナーズの活動」](#) → [「参加・協力団体の活動紹介」](#) からご覧ください。



## 支援チームからのお知らせ

### 経鼻栄養チューブに関する全国調査報告

医療安全全国共同行動は8つの行動目標の実現に向けて取り組んでいますが、目標3a支援チームでは、「経鼻栄養チューブ挿入時の位置確認の徹底」を目的とする推奨対策の普及に役立てていただくため、(株)シャーウッドのご協力を得て、平成21年12月にDVD教材「経鼻栄養チューブの挿入と管理」を作成いたしました。

DVD教材は共同行動参加登録施設をはじめ、希望される病院に無料で配布し、新人職員やスタッフ教育、マニュアル作りにご活用いただいています。全国からたくさんのご意見や評価をいただき、誠にありがとうございました。これらを参考にし、再度教材の検討に役立てたいと考えています。

DVDの配布に併せて実施しました「経鼻栄養チューブ挿入留置手技に関するアンケート調査」に多数の施設から回答をお寄せいただきました。アンケートにご協力いただきました皆様に厚く感謝申し上げますとともに、中間集計をご報告してお礼に代えさせていただきます。

なお、最終集計と分析結果につきましては、来る11月26日・27日に幕張メッセで開催される「医療安全全国フォーラム」にてご報告する予定です。

目標3a「経鼻栄養チューブ挿入時の位置確認の徹底」の実現に今後ともご協力を賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

平成22年8月18日

行動目標3a支援チーム代表 山元 恵子

\*「経鼻栄養チューブ挿入留置手技に関するアンケート調査」の中間集計は、[公開ページ/トップページ/メニュー](#) → [「パートナーズの活動」](#) → [「アンケート調査」](#) からご覧ください。

## フォーラム・セミナー等のご案内

### 全国フォーラム

#### 医療安全全国共同行動 全国フォーラム

日程: 11月26日(金)・27日(土)

会場: 幕張メッセ国際会議場 <http://www.m-messe.co.jp/access/index.html>

\*詳細は <http://kyodokodo.jp/101126forum.html>

### 地域フォーラム

#### (社)静岡県病院協会各地区主催「医療安全管理シンポジウム」(目標8に関連)

テーマ: 行動目標8 患者・市民の医療参加

〈西部地区〉

日時: 10月13日(水) 18:00~20:00

会場: 浜松市地域情報センター 1階 ホール

〈中部地区〉

日時: 11月8日(月) 18:00~20:00

会場: 静岡県産業経済会館 3階 大会議室

〈東部地区〉

日時: 11月16日(火) 18:00~20:00

会場: サンフロント 9階 ミーティングホール(沼津市)

\*詳細は追ってお知らせいたします。

### 8目標に関連するフォーラム、セミナー、シンポジウム、講習会

#### **NEW!** 第3回東北感染制御ネットワークフォーラム(目標4に関連)

日程: 8月28日(土)~8月29日(日)

会場: 仙台国際センター

\*詳細は [http://www.tohoku-icnet.ac/network\\_forum/index.html](http://www.tohoku-icnet.ac/network_forum/index.html)

#### 医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ入門(目標7に関連)

定員に達したため、募集を締め切りました

日程: 9月26日(日)〈全5回の最終回〉

会場: 自治医科大学付属病院 地域医療情報研修センター

\*詳細は [http://kyodokodo.jp/event\\_list.html](http://kyodokodo.jp/event_list.html)

#### 弾性ストッキング・コンダクター講習会(目標2に関連)

〈姫路地区〉

日時: 9月11日(土) 13:00~17:00

会場: 姫路商工会議所 5F 501ホール

〈旭川地区〉

日時: 10月16日(土) 12:30~16:30

会場: 旭川市民文化会館 大会議室

### 〈東京地区〉

日時: 10月30日(土) 13:00~17:00

会場: 杏林大学 大学院講堂

主催 日本静脈学会弾性ストッキング養成委員会

\*各講習会の詳細は <http://www.js-phlebology.org/japanese/sscc/index.html>

### 第12回フォーラム「医療の改善活動」全国大会in名古屋(すべての目標に関連)

会期: 10月1日(金) 12:50~10月2日(土) 17:05

(医療の改善導入推進セミナー 10/1午前中)

会場: 名古屋大学 豊田講堂(東山キャンパス)

主催: 医療のTQM推進協議会

\*詳細は <http://tqmh.jp/INDXTQM.html>

### 第5回医療の質・安全学会学術集会(すべての目標に関連)

会期: 11月27日(土)~11月28日(日)

会場: 幕張メッセ国際会議場 <http://www.m-messe.co.jp/access/index.html>

\*詳細は <http://www2.convention.co.jp/jsqsh05/>

## ひとことアドバイス

### 医療関連感染症の防止(目標4)

## MRSAは減らせます

山形大学医学部附属病院 検査部 森兼 啓太

日本中のどの医療機関でも、MRSAに困っていないところはないでしょう。MRSAはそれくらい普遍的になってしまっています。感染症法に基づくサーベイランスによって、MRSA感染症は日本全国で年間10万例以上発生していると推測されます。しかしこれは「氷山の一角」です。もっと多数の患者さんが、入院中にMRSAをもらっています。つまり、保菌していない状態で入院し、入院中の何らかの時点で保菌に至っていると考えられます。

保菌では患者さんは死亡しません。しかし、一旦保菌に至ると、自分自身のMRSAによって術後感染症を起こしたり、肺炎を起こしたりします。MRSA保菌に至らなければ、仮にそのような感染症が起こっても別の菌(例えばメチシリン感受性黄色ブドウ球菌、MSSA)が原因ですので、治療のための抗菌薬も様々な選択が可能です。

患者さんが保菌に至るのを止めるのが、MRSA感染症患者(保菌とわかっている患者も含む)への接触予防策であり、また、MRSAを保菌しているかどうか分からない患者も含めた全患者に対する手指衛生の遵守です。共同行動の目標に患者さんの療養環境の整備が挙げられていますが、本来接触予防策と手指衛生が守られていれば、環境整備はMRSAに感染・保菌している患者さんの周囲のごく限られた領域で必要なだけです。

MRSAの感染対策は難しくありません。医療従事者自身がMRSAを運ぶ可能性があること、保菌していない患者さんを保菌状態にしてしまうと患者さんにとって大きな害が及ぶ可能性があることを、すべての医療従事者が認識することが大切です。

医療機器の安全な操作と管理—輸液ポンプ・シリンジポンプ(目標5a)



武蔵野赤十字病院 医療安全推進室 杉山 良子

## 病院毎にポンプ類の使用手順書が必要です

めまぐるしく進歩していく医療の現場で、どういった医療機器をどのように使用して、有用な結果を出して患者安全の向上を図っていくのかということは、重要な課題となっています。国が医療安全を推進していく中で、医療機器メーカーにおいても安全性を基盤にしたモノづくりがすすめられてきました。事故事例をもとに、人間の操作性のミスをヒューマンエラーの視点から見直して、エラープルーフ化された医療機器も多く開発されてきています。看護師なら誰でもいつでも日常的に使用している精密医療機器である輸液ポンプ・シリンジポンプ(以後ポンプ類)の改良もその一例です。

しかし、そうして進歩してきた現状を現場が把握し、理解して、操作性における教育や業務方法の改善をしているかという点、“Yes”というには躊躇する現実があります。例えば、ポンプ類についていえば、メーカーからの取り扱い説明書だけで教育をしているとか、メーカーに教育をお任せで充分としている施設が多いのではないのでしょうか。ポンプ類の機器操作はできて、実際は「このような患者に、このような薬剤を、このような治療目的で使用していく」という、ポンプ類を使用するその奥に存在している患者との関係性についての洞察があるかという点、答えに戸惑います。

ポンプ類を使用するにあたっての操作手順に加えて、その病院毎のポンプ類の使用手順なるものが必要ではないでしょうか。ポンプ類操作の手順書は、ポンプ類の使用(運用)手順書の中に含まれるものです。ポンプ類を安全に使用していくうえで、使用開始時、使用中、薬剤切り替え時の「チェックリスト」の内容やその活用方法、機種を選別や薬剤との関連、さらにデバイスとの関連などの院内の標準化が必要であり、そのための院内教育のあり方(院内認定制度含めて)や、実際のポンプの使用点検評価等が看護の現場には必要と思います。加えて臨床工学技士による日常点検や定期点検があります。

ポンプ類の医療事故(アクシデント)は減少しているといえるものの、看護師のヒューマンエラーによるインシデントは後を絶ちません。ポンプ類の取り扱いを間違えれば患者の生命危機を誘発することを念頭に、目標5aを通じて、医療機器の安全操作を推進していくためになすべきこと、ポンプ類の事故の未然防止対策を実践していくことで、医療機器に強い看護師づくりをめざしたいと思っています。

\*ひとことアドバイスは、[公開ページ/トップページ/メニュー](#) → [「相談室/ひとことアドバイス」](#)からご覧ください

### フォーラム・セミナー等のスケジュール

8月27日(土)・28日(日) ▶ 第3回東北感染制御ネットワークフォーラム	10月13日(水) ▶ 静岡「医療安全管理シンポジウム」(西部地区)
9月11日(土) ▶ 弾性ストッキング・コンダクター姫路講習会	10月16日(土) ▶ 弾性ストッキング・コンダクター旭川講習会
9月26日(日) ▶ 医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ入門⑤	10月30日(土) ▶ 弾性ストッキング・コンダクター東京講習会
10月1(金)・2日(土) ▶ 第12回フォーラム「医療の改善活動」全国大会in名古屋	11月26日(金)・27日(土) ▶ 全国フォーラム
	11月27日(土)・28日(日) ▶ 第5回医療の質・安全学会学術集会
	11月8日(月) ▶ 静岡「医療安全管理シンポジウム」(中部地区)
	11月16日(火) ▶ 静岡「医療安全管理シンポジウム」(東部地区)

★ウェブマガジンWhat's on, Kyodokodoは第1・第3金曜日に配信します

院内にて掲示・回覧・配布等、ご活用ください

医療安全全国共同行動 “いのちをまもるパートナーズ”

ウェブマガジン What's on, Kyodokodo 編集室

E-mail: [secretariat@kyodokodo.jp](mailto:secretariat@kyodokodo.jp) URL: <http://kyodokodo.jp/>